

# 会 報

東北大学教育学部同窓会仙台支部

## 東北大学百周年記念事業について

教育学研究科長・教育学部長

### 菊池 武剋

教育学部が現在の文化系総合研究棟に移って2年目になります。川内から遠く仙台湾まで見渡せるこの新しい研究棟の研究・教育設備もようやく整いました。教育学の研究・教育の拠点として今後の展開をはかるに絶好の環境を与えられたわけですので、それにふさわしい活動を進めていかなければなりません。ご承知のように国立大学は平成16年から法人化されることになりました。いろいろ問題も懸念されるようですが、大学として、また教育学研究科・教育学部としてもこの機会に大きな発展を図るべく対応・準備を進めているところです。これまでの同窓の皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、今後ともご支援をお願い申し上げます。

ところで、ご承知と思いますが、東北大学は平成19年に百周年を迎えます。このために「知を創出し、人を育てる、開かれた大学へ」をスローガンに、百周年記念事業を計画しております。この事業のために募金目標を50億円とし、学内教職員、全同窓生、各企業等へ協力をお願いすることとなり、記念事業推進実行委員会が組織され、さる6月26日に第1回会合が開かれました。

実行委員会には教育学部同窓会、同仙台支部からも關口支部長さんをはじめとして同窓の皆様にも多数参加して頂いているところです。

百周年の記念事業として

- (1) 「東北大学基金」(自主・自立と自己責任の時代に臨む東北大学の基本財産)の創設
- (2) 「百周年記念建造物」の建設

(3) 「東北大学百年史」の刊行

(4) 「百周年記念催事」の実施

の4事業が計画されています。

百周年を機に東北大学のいっそうの発展を目指すものです。同窓の皆様のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。

### 第 24 回

#### 同窓会仙台支部総会のご案内

初秋の候、同窓生各位にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、下記により仙台支部総会を開催いたします。今年度は、大学当局のご好意で、昨年4月に新築されたばかりの文科系総合研究棟が会場となります。

ご多用の折とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。

#### 記

- 1. 日 時 平成15年10月25日(土)  
午後1時～5時15分
- 2. 会 場 東北大学文化系総合研究棟一号館  
会議室(11階) ☎217-6103  
(〒980-8576 仙台市青葉区川内)
- 3. 内 容  
(1) 仙台支部総会 13:00～13:50 (12:30受付開始)  
(2) 講 演 14:00～14:50  
講 師 東北大学大学院教育学研究科  
不破 和彦 教授  
演 題 「成人と高等教育」  
(イギリスと日本の比較)  
(3) 懇 親 会 15:15～17:15
- 4. 会 費 5,000円当日受付にて申し受けます。
- 5. 申込み 同封のハガキでお願いします。
- 6. 締切日 10月11日(土) 取消は10月18日(土)迄に  
\* 総会当日直前にキャンセルの場合は、会費のご負担をお願い致します。

## 学校スポーツから社会スポーツへ

副支部長 岡崎 忠 (36年入学)

小中学時代は体育の授業時間が待ち遠しいものであった。他教科より好きだったし、楽しかったからである。高校大学時代は専らラグビーを楽しんだ。高校体育教員となり、気がついたら還暦・定年を迎えていた。

この間に、高校教育の一環として開催されてきている平成2年の全国高校総体と国民のスポーツの祭典である平成13年の第56回国民体育大会の開催準備に携わる機会があり、日本の競技スポーツは大袈裟に言えば、ほとんど学校体育スポーツに依存していることを痛感した次第である。

ところが今は、高齢・少子化が急激に進み、社会的・経済的状況も不安定となり、学校5日制実施と相俟って学校スポーツの変革を余儀なくされている。スポーツに対する考え方も大きく変容してきている。チャンピオンを目指す勝利至上主義から豊かな生活を目指す楽しむスポーツへ。スポーツの楽しみ方にしても「する」から「みる」「ささえる」スポーツに。各地で「総合型地域スポーツクラブ」の設立が盛んになってきている。老若男女を問わず、特定の種目に縛らず、幼少から多くのスポーツを経験することにより生涯にわたって楽しむスポーツの選択の巾が広がるものと思われる。「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いろいろと」スポーツを楽しむことができるスポーツ環境の整備が待たれる。

今、日本は、学校スポーツから社会スポーツへの大きな転換の時期にあると思われるが、この時期こそ、よりよき未来の構想を練り上げる好機と言えらう。

このような状況にあっても、学校体育スポーツは、あらゆる意味でのスポーツの基礎・基本の形成にとって極めて重要な役割を担っており、より楽しいものになるよう、その充実を願っているものである。

## 仙 崎 へ の 旅

福井 正子 (31年入学)

今年は、金子みすず生誕百年祭で、四月にはふるさと仙崎の生家跡に「みすず記念館」が開館した。五月、私は神戸に用事があったので、念願の仙崎へ足をのびした。

期待と感動で一杯になりながら、仙崎駅前に立ち、海に真っすぐのびる「みすず通り」を歩いた。通りは小じんまりとして、きれいで、何となく親しみのもてる町並みだった。

「文英堂書店」の看板を見つけた。昔懐かしい雰囲気のお店を通って、二階に上がった。窓辺に、みすず愛用の質素な文机があった。みすずは、この机上で、五百十二編もの作品を書いたのだろうか。書店の奥には、立派な展示館があった。

仙崎にはやはりお寺が多い。その中で極楽寺の桜を見、次に遍照寺に行くと、お寺の奥様から親切にみすずの墓前に案内され、いろいろお話を伺った。まるで、みすずに会えたような気分になった。青海島や弁天島、漁港にも行って来た。仙崎には、みすずの世界に浸るスポットが沢山ある。

私がみすずについて強く関心を持つようになったのは、極最近で、JULIA出版社社長の太田祐子氏の講演を聞いてからである。

それから、機会ある毎にみすずの遺稿を見いだした矢崎節夫氏の講演や関係者の話を聞いたりした。勿論、映画やテレビドラマなども観た。

みすずの詩は、身近な生活の中から取り上げたものが多く、だれにでもわかりやすい。しかし、代表的な「大漁」でわかるように、平易な言葉で書かれているのに、今まで気づかなかったことに気づき、見えなかったことを見、聞こえなかったものを聞き、感じられなかったことを感じる事ができる。命を大切にし、慈愛深い眼差しでとらえているみすずの詩は、本当に深く、広い。この豊かな感性は、美しい仙崎の自然と家族愛、深い信仰心によって育まれてきたのではないだろうか。

## 「くん・さん」から「さん・さん」へ

副支部長 軍司 啓 (39年入学)

「ジェンダーフリー」の考えが加速する中で、私は戸惑っています。その理由を書きます。

「女性と男性はともに一人の人間として相互に尊重されなければならない。」という意見や「社会で営まれる生活や仕事での能力適性に、男女の性差はほとんどない。」という意見に同意できません。

しかし、本質的に変えられない部分「女性しかできないこと・男性しかできないこと」を小学生という心も体も大きく変化し・成長するとき、その本質的な差を全く考えないような対応でいいのでしょうか。

社会教育施設に勤務した経験と男の子の大きな変化を目にしたときの驚きから考えて見たいと思います。

宮城県中央児童館には、小学生が数多く宿泊研修に来ていました。一泊目の夜、家に帰りたい・お母さんに会いたいという女の子が宿泊研修のたびに一人二人必ずいました。

ところが、丁度年号が平成に変わった年に、宿泊研修の最後の楽しみの遊園の遊具で遊ぶとき、男の子がある遊具が怖くて泣いているのを見ました。そのときは、男の子でも怖がる子がいるのだけ程度でした。

その5年後蔵王少年自然の家に勤務するようになったとき、宿泊研修の一泊目の夜男の子が家に帰りたい・お母さんに会いたいと泣くのを目にする事が多くなり、女の子が泣くのは目にしなくなりました。

このように男の子がか細く弱くなっているときに、それを助長するような女子も男子も「さん」でいいのだろうか。男として本質的に持ち合わせている女性を大切に守り・尊重することを見直す必要があるという思いが、戸惑いの理由です。

よい対応をお教えてください。

## 同期会だより

九期会 (昭和32年入学)

九期会は、10年前くらいに開催して以来開店休業である。小生の大学時代のもう一つの「同期会」のことを記述します。

昭和34、35年に教育学部に「山想会」という、山歩きの会(サークル)が存在したことを知っている人はほとんどいないと思う。15名くらいの会員で、年に数回山歩きをしていた。

「40年前の青春にタイムスリップ」と題して、輝いた青春の写真を肴に懇親会を開いている。

何を想い、何に期待し、何に憧れ、山に行っただろうか。写真を見ながら、語り合っても、途切れてしまう記憶、つなぎ合わせることのできない記憶……。不思議なものです、ポケットの奥深くしまいこんだ思い出の中には、誰にも触れることができない時空があるのだろう。

タイムトンネルを通して、「青春回帰」の時空を追い続けることになる。

(文責 久保田 明)

十期会 (昭和33年入学)

昭和33年度入学から、その名をとって燦々会としたのは、ごく最近のことです。もっとも散々会ではないかという話もありますが。

この会も卒業年度をとったり、また入学をとったりと変化しましたが、卒業以来各年度の幹部の働きもあり、年々総会とそれに続く33会もにぎやかに開催しています。

仙台支部会員として、現在は120名の登録はありますが、第二の人生もそれぞれに充実しているのか、それとも現在の経済状況を反映しているのか、やや参加が下向きなのが気掛かりですが、もともと陽気なのがこの会の身上ですので、万事これからというところですよ。2年に1回お楽しみ会を県外会員とともに行っており、その点で燦々会は万万歳というところですよ。

(文責 金岡 昭房)

# 仙台支部役員名簿

(平成13. 12～平成15. 11)

顧問	藤井 黎	24三浦 修一
	25多田 滋	25佐々木一洋
	28永野 昌一	31雪江 美久
支部長	37關口 隆	
副支部長	36阿部 琢也	36岡崎 忠
	39軍司 啓	
参与	24岩淵昌次郎	24富塚 英雄
	24志村 元一	29石森 幸子
	31柘澤 怜	32佐々木亀三男
	33佐藤 健仁	
年度理事	24小野 春夫	24川井 善夫
	24丸谷慶次郎	
	25高橋 公正	25菊池 康雄
	25静田 一	
	26三橋 亮一	26池田 和夫
	27岡崎 忠	27青木 敏浩
	28小關 幸生	28古澤 良一
	29青木 寛敏	29星 博
	30小野 正義	30小畑 博之
	31楨 要照	31今野 健
	31菅原 教雄	
	32久保田 明	32砂金 信男
	33金岡 昭房	33熊谷 捷子
	34菱沼安太郎	34一条 紀久
	35泉 豊	35岡本 幸子
	36川村 幸	
	37菊田 泰丸	37小倉 英樹
	38櫻井 正幸	38熊谷 洋
	39牛田 和夫	39五十嵐楯夫
	41安住 裕	50別府 成裕
	52白澤 利広	57川上 芳夫
監事	25佐藤 寿郎	48宮腰 英一
大学関係理事	52渡部 信一	
事務局	35伊藤 昭	38佐藤 誠
	39大浪 榮一	
会計理事	36正木 競	37千葉 雅修
	39郡山 慶子	

# 事務局だより

会員の皆様には、日ごろ多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。

下記のように委員会を構成し、それぞれ活動を展開しております。

## 会則検討委員会

委員長 31柘澤 怜 副委員長 31今野 健  
委員 25静田 一 28古澤 良一  
34一条 紀久 37菊田 泰丸

## 名簿作成委員会

委員長 30小野 正義 副委員長 31菅原 教雄  
委員 25高橋 公正 29青木 寛敏  
33金岡 昭房 35泉 豊

## 会報発行委員会

委員長 25菊池 康雄 副委員長 32佐々木亀三男  
委員 26池田 和夫 27青木 敏浩  
32久保田 明 34菱沼安太郎  
39牛田 和夫

## 会計委員会

委員長 29石森 幸子 副委員長 36正木 競  
委員 37千葉 雅修 39郡山 慶子

## 東北大学創立百周年記念事業推進実行委員会(仙台支部関係)

実行副委員長 37關口 隆  
常任実行委員 25多田 滋  
推進実行委員オピニオンリーダー

25多田 滋 25高橋 公正  
27青木 敏浩 28永野 昌一  
28小關 幸生 31柘澤 怜  
37關口 隆  
推進実行委員 28木村 力雄 30小金澤紀光  
33佐藤 健仁 36正木 競  
39松田 尚嗣 39大浪 榮一

○今年は役員改選の年です。皆様のご協力、よろしく御願いたします。

○会報第7号をお届けいたします。ご多用中、ご執筆いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

○会報につきまして、皆様方からのご意見、ご希望等を下記事務局(連絡先)にお寄せいただければ幸いに存じます。

## 事務局(連絡先)

〒982-0816 仙台市太白区山田本町20-10  
伊藤 昭 TEL 244-1830

## (連絡先)

幸町南小学校 佐藤 誠 TEL 792-9133  
吉成小学校 大浪 榮一 TEL 278-5190